

メガネのご寄付受付は現在終了しております。

一緒に がんばろう! いわて!

皆様の
気持ちを

被災地の
方々へ

**皆様のご不要になったメガネを
ご寄付ください**

今、たくさんの方々から津波でメガネを失い、
不便な思いをされています。
メガネの松田では、皆さまのご不要になったメガネをお預かりし、
被災地にお届けする活動をしています。

**メガネ・コンタクトの売上の一部を
震災義援金にいたします**

メガネの松田では当分の間、売上の3%を
岩手県災害義援金募集委員会を通じて寄付いたします。

メガネの松田



メガネ支援は、このようなポスターで呼びかけ、全国からこんなにたくさんの方々がメガネをお寄せいただきました。

感激! たくさんの方々の メガネ提供が!

この頃から、ホームページやラジオを通じて、県内の皆さんに不要なメガネの提供を呼びかけ始めました。しかし、まだ余震も続き、内陸でもガソリンスタンドにはいつも車の長い列、スーパーの棚はガラガラという状況の中でしたので、簡単には集まらないだろうと思っていたのです。ところが、呼びかけた次の日から、『メガネの松田』各店に、たくさんの方々がメガネを持って来て下さったのです!

全国に広がる 支援の輪

大槌町には、結局2回目、3回目と二度訪れ、4か所の避難所などで、約500人の

これに力を得た私たちは、次のメガネ支援を考え始めました。そんな時、自治労の岩手県支部の方から、「大槌町役場の職員がメガネを流されて困っている。何とか助

けてもらえないか。」という連絡をいただきました。大槌町と言えば、役場そのものが大きな被害を受け、町長をはじめとして多くの職員が亡くなったところです。生き残った職員の方々が、メガネを失いながらも懸命に町のために働いている姿を想像すると、居ても立ってもいられませんでした。

「大槌町に行くぞ!」3月28日、前回の活動の反省から、持つて行く物資を吟味し、役場の飯庁舎となつている大槌町中央公民館を目指しました。公民館は騒然としていました。あまり広くない建物には、多くの町民や救援を行っていたさまざまな団体のスタッフが入り乱れています。そんな中、私たちは公民館の廊下の片隅に机を借りて、現場職員と避難者の方々のメガネ提供を開始したのでした。続々と集まる町民の方々。寒さも忘れて終日対応しました。ふと気づくと、私たちが活動を行っていた机の隣は、役場の死亡届の受付でした。

方々にメガネ提供を行いました。4月になると、メーカーから、震災直後にお願ひしていたコンタクトのケア用品やルーペなどの支援物資が届きました。また、日本眼科医学会や全国のメガネ店からも、支援のレンズ、フレームが続々と集まってきました。そしてホームページで見たと、全国の一般の方々のメガネの寄付が集まり始めたのもこの頃です。メガネに添えられた手紙には、全国の皆さんの被災地

被災者のみなさんは皆マスクをしています。目が充血している方が多く、衛生状態も決していい状況ではありません。寒い避難所で、昼食は冷たいおにぎり一つというようなことでもざらです。そんな状況の中、メガネを必要として

この頃の被災地は、ライブラリーの復旧のめども立たず、打ち上げられた船や瓦礫の撤去も手つかずの状態。周辺は津波で流されてきた泥が舞い上がり、ホコリだらけでした。

「何か支援をしたい」という気持ちが溢れていて、それを読んでいただけで泣けてきてしまうがありました。この頃の被災地は、ライブラリーの復旧のめども立たず、打ち上げられた船や瓦礫の撤去も手つかずの状態。周辺は津波で流されてきた泥が舞い上がり、ホコリだらけでした。

いるたくさんの方々の長い列が続く、スタッフ一同が必死の形相でボランティアをしていました。メガネを津波でなくした小学生の女の子に、常務が近視用のメガネを渡すと、「これでみんな楽しく遊べます。ありがとうございます。ありがとうございました。」ととびきりの笑顔を見せてくれました。子どもの笑顔は本当に力になります。回りのスタッフ一同



ご支援いただいたメガネを度数毎に分けて持って行きました。



老眼鏡の調整では新聞が読めるかどうかが大切。

も笑顔を取り戻した瞬間でした。そして帰りの国道では、県外の市町村の名前をつけた緊急支援車両や給水車、重機を積んだトレーラーがどろどろ被災地に向かって行くのに会いました。日本全国からの応援が届き始めていました。

「津波の後しばらくは茫然としてしまつて。一日一日を生きていくだけで精いっぱいでした。でも、いろいろな人たちが励ましてくれたり、お店の片づけを手つだつてくれたりして、だんだん復活のことを考えられるようになって。借金も増えちゃいましたけど何とか再開できそうです。本当に皆さんに感謝、感謝です。」

「ここまで、大変な苦労をされてきたと思う心さんですが、そんなことは微塵も感じさせない希望にあふ



心さんと復興を誓ってガッチリ握手。

野田村でのステキな出逢い 復活をとげた 「まるきん大沢菓子店」さん

以前、この松田新聞でもご紹介した野田村の「まるきん大沢菓子店」さん。お話を聞きまして、「野田村には、『まるきん大沢菓子店』という、とても美味しいお菓子をつくつておられるお店があります。津波の被害を受け、建物の海水と瓦礫が流れ込んだりして、お店が壊れてしまつた。お店周辺の瓦礫は片づけられていますが、看板支柱には私の背丈くらいの部分に「この高さまで津波が来た」とを示す白線が引かれていました。

「津波の後しばらくは茫然としてしまつて。一日一日を生きていくだけで精いっぱいでした。でも、いろいろな人たちが励ましてくれたり、お店の片づけを手つだつてくれたりして、だんだん復活のことを考えられるようになって。借金も増えちゃいましたけど何とか再開できそうです。本当に皆さんに感謝、感謝です。」

「津波の後しばらくは茫然としてしまつて。一日一日を生きていくだけで精いっぱいでした。でも、いろいろな人たちが励ましてくれたり、お店の片づけを手つだつてくれたりして、だんだん復活のことを考えられるようになって。借金も増えちゃいましたけど何とか再開できそうです。本当に皆さんに感謝、感謝です。」

「津波の後しばらくは茫然としてしまつて。一日一日を生きていくだけで精いっぱいでした。でも、いろいろな人たちが励ましてくれたり、お店の片づけを手つだつてくれたりして、だんだん復活のことを考えられるようになって。借金も増えちゃいましたけど何とか再開できそうです。本当に皆さんに感謝、感謝です。」

読者VOICE

たくさんのお便り、ありがとうございます。

- メガネボランティアはもう13回目になるんですね。わが家からのフレームもお役に立てたでしょうか。こんな素晴らしいイベントも大変な事前準備があってこそなのですね。感動しています。
盛岡市・OMさん
- ありがとうございます! 震災の支援を行ったため、今年のネパールのメガネボランティアは中止にしましたが、この10年のネパールでの経験が今回は本当に役に立ちました。『メガネの松田』では、これからも何かの形で、私たちのできる支援をしていきたいと思っています。
- メガネをかけて30年。盛岡に住んで10年。盛岡に来てすぐ、歪んだフレームを直してもらうためにたまたま寄ったのが大通本店でした。にこやかに丁寧な対応をしてもらい、それ以来の愛用店です。
盛岡市・OEさん
- 10年もお引き立てありがとうございます。『メガネの松田』では、他店でお買い求めのメガネの修理や調整も行っています。ご遠慮なくご来店下さい。そして、スタッフが明るいのは当店の自慢です。気さくで家族的な雰囲気を心がけていますので、何でも気軽にお尋ねください。



まるきん大沢菓子店
〒028-8201 九戸郡野田村大字野田20-25-5
電話: 0194-78-2538 FAX: 0194-78-4126

「津波の後しばらくは茫然としてしまつて。一日一日を生きていくだけで精いっぱいでした。でも、いろいろな人たちが励ましてくれたり、お店の片づけを手つだつてくれたりして、だんだん復活のことを考えられるようになって。借金も増えちゃいましたけど何とか再開できそうです。本当に皆さんに感謝、感謝です。」

●営業時間: しばらくの間、朝9時から夜6時まで。
●定休日: まだ未定です。(もしいろいろの場合はお問い合わせください。)
●まるきんブログ: <http://blog.goo.ne.jp/marukin-oosawa>
「まるきん野田村」で検索して、心さんのブログもご覧ください。
5月26日には今回の訪問のことを書いてくださっています。